

【審判研修のご案内】

私たちを取りまく環境は、少子化、グローバル化が急激に進み、日々変化しています。これら社会の変化に伴い、大学の役割も変化を求められるようになりました。日本語教育においても、例外ではありません。「社会人基礎力」、「21世紀型スキル」を日本語教育に応用する方法として、日本語ディベートが注目されるようになりました。

しかしながら、日本語教育にディベートを取り入れようとした時に課題になるのが審判です。今までも多くの先生方から審査の方法についてご相談を受けてきました。そこで、今回はその懸念を解決するためにディベート審査員教育に関して研究と実践を行っている方をお招きして研修を実施する事にいたしました。

本大会のコーディネートをつとめてくださり、審判研修の研究論文もご執筆され、また、公官庁、企業、教育と幅広い分野で審判研修経験をお持ちの久保健治先生（JDA理事、CoDA専務理事、九州大学大学院学術研究員）と現在、JDA会長として、ディベート教育の普及に長く携わっている、師岡淳也先生（立教大学准教授）、韓国で日本語教師向けの審判研修を手掛けている諏訪昭宏先生（韓国大学生日本語ディベート大会運営委員会代表、釜山外国語大学副教授）が台湾での審判研修を担当してくださることになりました。是非、ご参加ください。

《久保先生からのメッセージ》

ディベート教育においては、審査を通じての適切なフィードバックが学習者の力を伸ばすための最大のポイントとなります。ディベートの審判は議論を通じた意思決定の訓練でもあり、完成する事はありません。しかし、審査をする上でのポイントは存在しています。公官庁、教育現場、企業など様々な場所でディベート審査員教育を実施してきた経験から、誰もが共通で悩む課題を抽出し、それらを解決する審査員メソッドを考案しました。

これらを日本語教育にどのように応用していくべきかについて、皆様と一緒に理論と実践をケーススタディを通して学びたいと思います。

《師岡先生からのメッセージ》

よい審査員の存在は、よいディベーターを育成し、よいディベート・コミュニティを育む上で欠かすことができません。議論の評価、判定理由の説明、試合の講評、ディベーターへの助言など、多岐にわたる審査員の役割や審査のポイント、よい審査員になるためのコツなどについて、受講者の皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。

《諏訪先生からのメッセージ》

「学生たちの議論についていけない。」「何を基準に勝ち負けを判断したらいいのかわからない。」「試合後のフィードバックはどうしたらいいのかわからない。」「果たして判定が正しかったのか未だに悩む。」

こうした悩みは、言語や競技/教室といった形態を問わず、ディベートの審判をする上で、誰しも共通に抱える悩みであると思います。台湾大会をモデルに2012年より韓国で毎年開催されている日本語ディベート大会を例に、日本語教育での大会や教室ディベートにおける審判のあり方を、皆さんと一緒に考えていく時間になればと思っています。

日時：2019年3月1日（金）10：30-18：00「ディベートの評価の方法」
3月2日（土）09：00-16：00「ディベートジャッジ演習」

会場：国立交通大學綜合一館5F 会議室（新竹市大學路1001号）

参加対象：今後、大会の審判として携わることができる方。

授業でディベートを取り入れている（或いは今後取り入れる予定の）方。

二日間とも受講できる方。

受講料：1,000円（3/1、2の昼食、3/2の懇親会参加費含む）

※今回、CoDAが作成したディベートワークブック（1,500円）を販売させていただきます。予約分だけ日本から持ってきてもらいますので、事前にお知らせください。

※宿泊が必要な方は申し込み時にお知らせください。

申し込みサイト：<http://urx2.nu/P5j8>

大会ウェブサイト：<https://istdebate.wixsite.com/ijdebate>

お問い合わせ：kamijo@mail.nctu.edu.tw

《指導者、審判のためのセミナープログラム》

3月1日（金）

1030-1200 審判研修1

1200-1400 飲茶パーティ（本大会参加学生たちとの交流会）

1430-1700 審判研修2

1700-1800 ディベート教育、日本語教育関係者との意見交換会

3月2日（土）

0900-1600 演習（大会の審判を主審判と一緒に体験）

1800-2000 懇親会

